

## 鳥獣被害対策の取り組み

鳥獣対策課

## 1 平成27年度の取り組み

## (1) 野生鳥獣に強い高知県づくり

【成果目標】被害集落の半減（3年間で500集落）による農林業被害の軽減

## ◆野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

平成24年度から実施した「野生鳥獣に強い集落づくり事業」のモデル集落での取り組みを県内全域に拡大し、被害額の大幅な減少を目指す

- ・鳥獣被害対策専門員の活動強化、空白地域の解消（12名→13名）
- ・国の交付金を活用のできない農地等やイノシシ・サル等についても対象として県単で支援を実施
- ・支援集落：28市町村175集落を選定（うち被害対策への合意集落：126集落）

## (2) 捕獲対策の強化

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

## ◆集落ぐるみの捕獲推進

被害のある集落に“くくりわな”を配付し、集落ぐるみの捕獲体制の確立を目指す

- ・わな配付数：3,900個（新規狩猟者：690個 被害集落：3,210個）  
配付予定集落：26市町村 559集落
- ・わな捕獲講習会の開催：わな配付に合わせ、県内25ヵ所で講習会開催

## ◆新規狩猟者の確保

わな配付集落での掘り起こし、出前試験・狩猟フォーラムの開催による狩猟者の掘り起こし

- ・狩猟免許試験実施回数 16回（うち出前試験4回）  
H28.1末：16回（わな猟：340名 銃猟：78名 計：418名）
- ・狩猟フォーラム：11月3日（祝）13:00～ 高知工科大学（参加者数：223名）

## ◆森林地域でのシカ捕獲の推進

皆伐地等での効率的なシカ捕獲技術の開発

- ・シカネットや餌付けと組み合わせた新たな手法によるくくりわなでの捕獲  
三嶺シカ捕獲：9月27日（日）（関係機関215名参加：捕獲頭数6頭）

## (3) 捕獲鳥獣の有効活用

【成果目標】安全・安心な流通ルートの確立とジビエの消費拡大

## ◆消費拡大の推進

捕獲鳥獣を地域資源として有効活用することで、地域の活性化や産業振興につなげる。

特に、安全・安心な加工・流通・販売ルートの確立とジビエの消費拡大に取り組む。

- ・よさこいジビエ衛生管理ガイドラインの周知  
講習会の開催（狩猟者・食肉処理業者、飲食店等）  
よさこいジビエ調理教室：9月8日（火）四万十市立中央公民館（参加者数：7名）  
9月10日（木）高知市文化プラザかるぽーと（参加者数：10名）  
よさこいジビエ解体講習会：10月20日（火）高知県広域食肉センター（参加者数：11名）
- ・ジビエ流通実態調査
- ・ジビエフェアの開催・協力店舗の拡大（1月15日～3月13日）（協力店舗数：34店）

## 2 平成28年度の取り組み

### (1) 野生鳥獣に強い高知県づくり

【成果目標】被害集落の半減（3年間で500集落）による農林業被害の軽減

#### ◆野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

被害をなくした集落での成功事例を県下に普及・拡大するため、鳥獣被害対策専門員を中心に被害集落への総合的な支援を実施し、被害額の大幅な減少を目指す

- ・鳥獣被害対策専門員の活動強化（11JA15名体制）
- ・国の交付金を活用のできない農地等やイノシシ・サル等についても対象として県単で支援を実施
- ・支援集落：170集落を選定予定

### (2) 捕獲対策の強化

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

#### ◆捕獲困難地域でのシカ捕獲の推進

捕獲困難地域において認定鳥獣捕獲等事業者に委託してシカ捕獲を実施する。

- ・事業実施予定地：高標高域の山岳地など捕獲困難地域（三嶺等）

#### ◆サル捕獲の推進

サルの群れごと捕獲技術の実証

- ・大型囲いわなやくくりわなを使用した新たな手法によるサルの群れごと捕獲
- ・大型囲いわな：2か所　くくりわな：2か所

#### ◆新規狩猟者の確保

被害集落での掘り起こし、出前試験・狩猟フォーラムの開催による狩猟者の掘り起こし

- ・狩猟免許試験実施回数 16回（うち出前試験4回）
- ・狩猟フォーラム：10月開催予定

### (3) 捕獲鳥獣の有効活用

【成果目標】安全・安心な流通ルートの確立とジビエの消費拡大

#### ◆消費拡大の推進

捕獲鳥獣を地域資源として有効活用することで、地域の活性化や産業振興につなげる。特に、安全・安心な加工・流通・販売ルートの確立とジビエの消費拡大に取り組む。

- ・よさこいジビエ衛生管理ガイドラインの周知  
講習会の開催（狩猟者・食肉処理業者、飲食店等）
- ・ジビエフェアの開催・協力店舗の拡大（1月中旬～3月中旬）
- ・よさこいジビエ利用促進研究会の立ち上げ、総合的なジビエ振興を推進

### (4) シカ・イノシシの管理計画の策定

#### ◆高知県第二種特定鳥獣（シカ・イノシシ）管理計画の策定（H29年度から5年間）

- ・高知県全域の生息状況等調査の実施
- ・生息頭数の推計及び捕獲目標の見直し

# 鳥獣被害の半減とシカ捕獲3万頭の達成に向けた、鳥獣対策の加速化！

## これまでの取組み

- 平成24年度から鳥獣被害対策を抜本強化
  - 野生鳥獣に強い集落づくり事業に取り組み、3年間で31集落を支援（多くのモデル集落で被害ゼロを実現）
  - 抜本強化により、捕獲頭数の大幅な増加、被害の減少傾向など一定の成果が見え始めている。
- 平成27年度から鳥獣被害対策をさらにバージョンアップ
  - 被害額の大幅な減少を目指してモデル集落（被害ゼロ）での取り組みを県内全域に波及させるため「野生鳥獣に強い高知県づくり」に取り組み3年間で被害集落の半減を目指す（3年間で500集落を支援）

※対象集落約1,000集落（シカ・イノシシ・サルの被害が深刻な集落）

### 野生鳥獣に強い高知県づくり

- 国の交付金を活用した防護柵の設置
  - 平成27年  
28市町村 175集落  
(140集落で合意形成に基づく対策の実施)
- 鳥獣被害対策市町村支援総合補助金
  - ・国の交付金の活用できない農地やイノシシ・サルなどへのきめ細やかな支援

野生鳥獣に強い高知県づくり

## 課題

- 野生鳥獣に強い高知県づくりの支援集落（年間170集落）の選定
  - ※集落での合意形成に時間を要する。

### 集落支援の手順例

- 1 推進チームによる支援集落の選定
- 2 集落での勉強会の開催
- 3 集落の環境調査や鳥獣の出没状況の把握
- 4 集落での共通認識の醸成（合意形成）
- 5 集落共同での防護柵の設置と管理
- 6 集落ぐるみでの捕獲を推進
- 7 捕獲した鳥獣の有効活用（ジビエの普及）

- 被害額は減少傾向にあるものの依然3億円規模

平成24年度 : 359百万円  
平成25年度 : 324百万円  
平成26年度 : 285百万円

- 狩猟者の確保と捕獲技術の向上
  - ・狩猟者は増加傾向にあるが目標が未達成
  - ※新規狩猟者数：年間500人を目標

- 捕獲困難地域でのシカ捕獲
  - ・シカ捕獲3万頭に向けた捕獲困難地域での捕獲



- サル対策
  - ・実用的な群れごと捕獲技術の普及

- 捕獲された野生鳥獣肉（ジビエ）の普及・定着
  - ・捕獲されたシカのジビエへの利用率（約1.6%）
  - ※平成26年度捕獲数：19,093頭（うちジビエ利用頭数：約300頭）



## 方向性

I 鳥獣被害対策専門員の体制強化

II 市町村が実施する被害対策への継続支援

III シカ捕獲の強化（捕獲困難地域での捕獲への挑戦）

IV サル被害対策の強化

V 安全安心なジビエ提供の仕組みづくり

## H28年度の取組み

### ■ 環境整備対策

- 管轄エリアが広く支援集落の多い嶺北地域を増員
  - ・鳥獣被害対策専門員の拡充（11JA15名体制）



### ■ 防除対策

- 防護柵設置への支援

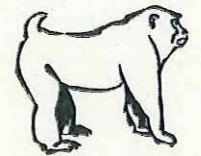


### ■ 捕獲対策

- シカ個体数調整事業の継続実施
  - ・狩猟期のシカ捕獲に対し捕獲報償金を支出することでシカ捕獲を推進

- 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施
  - ・三嶺地域など捕獲困難地域での捕獲の強化

- サル捕獲強化事業の実施
  - ・新たな手法による群れごと捕獲の実施



- 捕獲の担い手の確保と育成
  - ・鳥獣被害対策の普及・啓発を図るとともに、狩猟者の確保及び捕獲された獣肉の有効活用につなげるため、狩猟フォーラムを開催

- よさこいジビエ利用促進研究会（仮称）の設立
  - ・野生鳥獣の肉を地域の資源として活用を進めるため、狩猟者、ジビエにかかわる事業者、行政などで構成する研究会を立ち上げ、総合的なジビエ振興を推進

被害集落の半減

シカ捕獲3万頭の達成

捕獲

